

<資料紹介>

## 寄贈された弥生土器について

たかはしひろゆき  
高橋宏之(水子貝塚資料館)

1. はじめに ここに紹介する資料は当館に寄贈された2点の弥生土器である。いずれも市内水子地区からの出土品である。

2. 寄贈弥生土器 1 この土器は市内在住の方から平成25年4月に寄贈を受けたもので、市内水子の3070番地の畑地で農作業中に発見された。

この土器の発見地を含む観音前遺跡では、遺跡中央部の第10地点から弥生時代後期の環濠と思われる溝跡、住居跡が多数発見されており、弥生時代後期～古墳時代初頭、後期を中心とした大規模複合遺跡と考えられている。

法量は高さ26.3cm、口径16.3cm、頸径7.9cm、胴径23cm、底径9.3cmを測る。口縁部は弥生時代後期にみられる折り返し口縁で、頸部上段にかけてクシ状工具による縦方向の整形痕がある。発見時既に口縁部は4分の3が欠損した状態だったが、割れ面がまだ新鮮だったことから元は完形であった可能性が高い。

外面全体と口頸部内面に赤彩が施されている。外面全体が縦方向のヘラミガキで丁寧に磨かれており、細かい磨痕も認められる。内面は口縁から頸部付近まで横方向のヘラミガキが認められる。

この土器の特徴として、胴部中央から下方にかけて籠目状に付着したススがある。これは籠状のもので覆われた土器が煙で燻された結果、ススが籠目状に付着したものと考えられる。

市内では、未報告だが南通遺跡の61号住居跡からも、籠目痕のある土師器壺(五領式期)が出土している。頸部から底面付近まで包み込むような籠目痕を確認できる。近隣自治体でも志木市の西原大塚遺跡や富士前遺跡で籠目痕のある土器が発見されている。特に富士前遺跡の土器は柔らかい帯状のものでしっかり編み込んだ痕跡があり、志木市史ではこれを編袋痕と表現している。

それらに比べると、当事例のススの付着は局所的である。

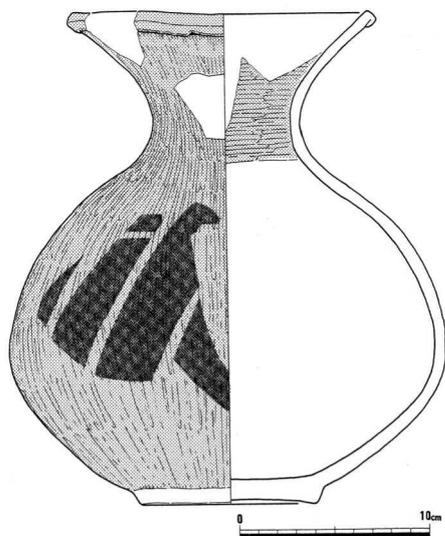


図1 寄贈弥生土器1実測図(S=1/4)

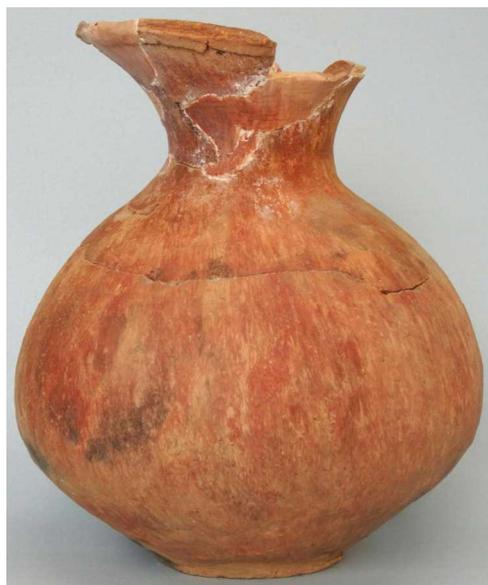


図2 寄贈弥生土器1写真

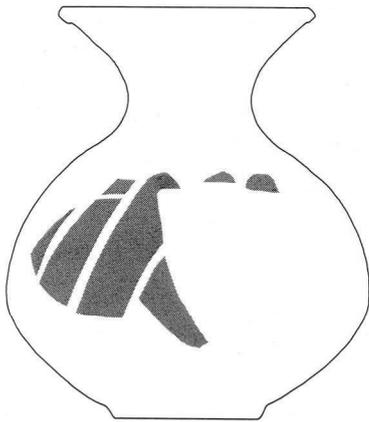


図3 寄贈弥生土器1 籠目痕（正面）模式図



図4 寄贈弥生土器1 籠目痕（正面）写真

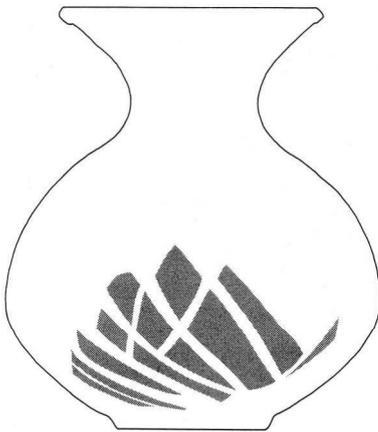


図5 寄贈弥生土器1 籠目痕（背面）模式図



図6 寄贈弥生土器1 籠目痕（背面）写真

3. 寄贈弥生土器 2 この土器は令和元年 7 月に都内在住の方より寄贈を受けたものである。弥生時代後期の壺形土器で、口縁部と底部が欠損している。寄贈を受けた段階で既に底部が石膏で復元されており、そこには墨書で「埼玉縣水子 四十、二月」と記されている。

「四十」は、明治 40 年、1940 年、昭和 40 年の 3 つの可能性が考えられるが、中でも昭和 40 年(1965)には和島誠一らによる水子貝塚のボーリング調査と打越遺跡の発掘調査が行われており、最も可能性が高いと思われる。

法量は現存高 27.7 cm、胴径 27.0 cm を測る。外面は全面ヘラミガキで、赤彩も認められる。また胴部には土圧によるものとみられる大きなひび割れが縦に入る。

この土器の特徴として、疑似縄文があげられる。これはオオバコの花穂のようなものを原体

とし、回転させて付けたと思われる、間に空白部分を残す形で 4 段に分けて施文されている。上から 1 段目は花穂の根元と思われる縦長の節が確認でき、2 段目から 4 段目は花穂部分と思われる細かい節が、回転の単位ごとに僅かな空白部分を残して施文されている。なお、市内では弥生時代後期の南通遺跡第 3 地点 255 住居跡から、同様のオオバコの花穂を原体にしたと思われる回転圧痕の壺形土器が出土している。

土器の底部は復元状況から底部穿孔土器の可能性が高く、方形周溝墓から出土した土器と推定される。同様の底部穿孔を伴う壺形土器は、市内では北通遺跡などで確認されている。

本土器が採集された水子地区では、方形周溝墓が確認されている東台遺跡をはじめ、氷川前遺跡や観音前遺跡など弥生時代後期～古墳時代初頭の大規模集落が多数報告されている。

東台遺跡では3基の方形周溝墓とそれに伴う底部穿孔の土器が発見されている。

観音前遺跡でも遺跡範囲内の畑地において、底部穿孔の装飾付壺形土器が、周辺のローム層より深い黒色土中から発見されたことが報告されており、方形周溝墓が想定されている。

氷川前遺跡では近年の発掘調査により4基の方形周溝墓が確認されている。1号方形周溝墓では器高約64cm、胴径約52cmを測る大型の壺

が、2号方形周溝墓からは焼成後に底部を穿孔した壺形土器が出土している。

#### 参考文献

志木市 1984『志木市史』141-167,172-183頁

峰村篤 2012「富士見市南通第3地点出土の弥生土器について-オオバコ回転文の一事例-」『富士見市立資料館活動報告2012』22-23頁

水子貝塚資料館 2021『企画展 首長の墓と鉄剣～富士見市の弥生文化～』

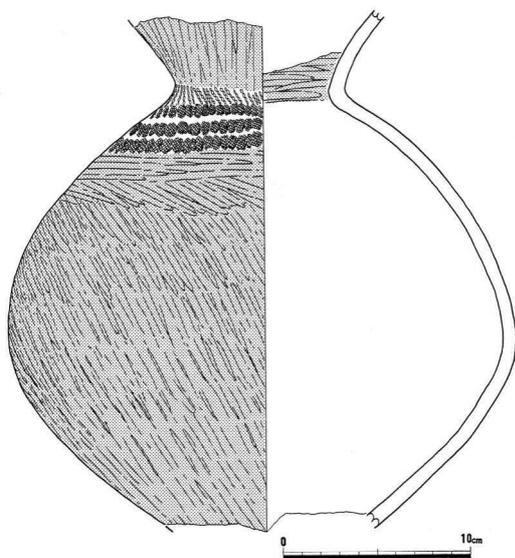


図7 寄贈弥生土器2実測図(S=1/4)



図8 寄贈弥生土器2写真(1)



図9 寄贈弥生土器2写真(2)  
(土圧によるひび割れ)



図10 疑似縄文 写真

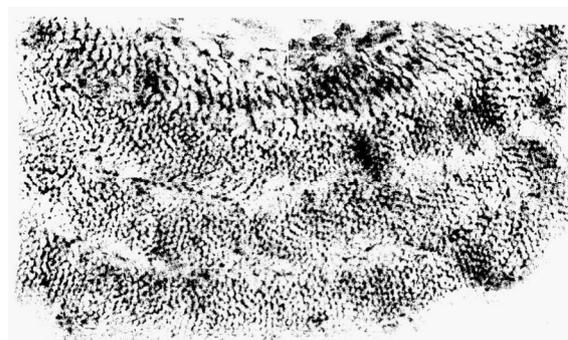


図11 疑似縄文帯 拓影